

## 過疎化が進む離島の活性化

### 1, 緒論

日本は世界各国の中でも四方を海に囲まれた有数の島国であることから多くの離島が存在している。

これらの離島は、本土との社会生活基盤の格差・人口減少・高齢化など様々な問題を抱えていて、数年後には存在が無くなると予測されている地方自治体も多く存在している。そこで私は離島の過疎化に歯止めをかけ、離島を守るために、人口増加、地域活性化を目的とした「離島リゾート化プラン」を提案する。



参照( <http://www.palauppr.com/languages/default-ja.html> )

2, 「離島リゾート化プラン」を達成するための STEP は以下の2つが考えられる。

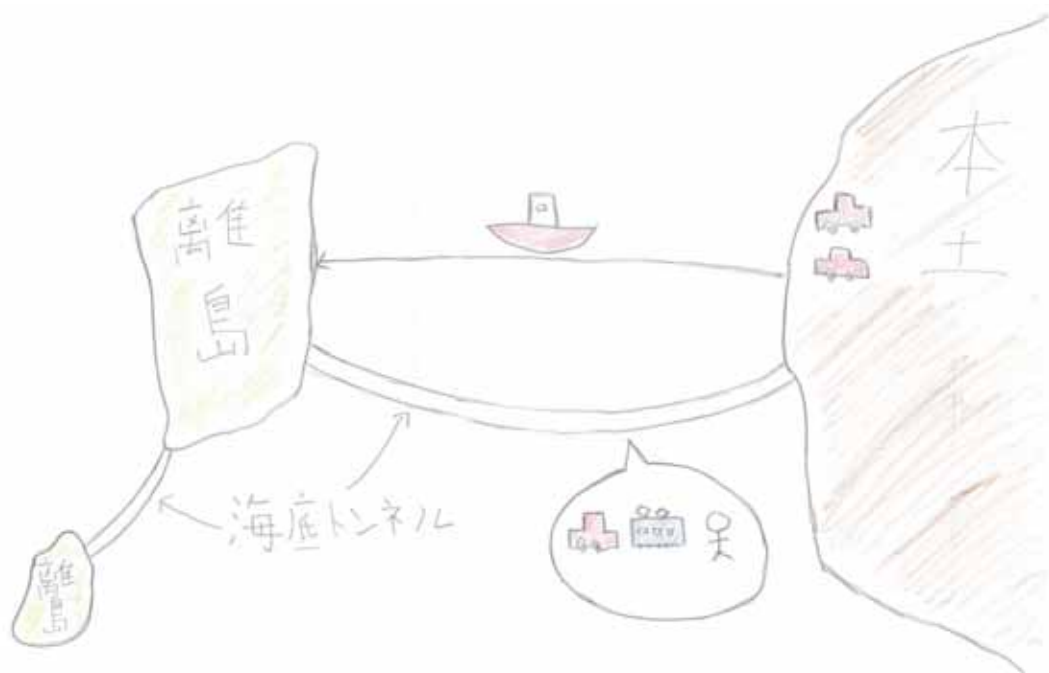
【STEP1】 交通手段の改善（離島～本土の海底トンネル建設）

【STEP2】 観光地への転換（目玉施設やリゾートホテル建設）

## 【STEP1】交通手段の改善（離島～本土の海底トンネル建設）

現在、離島・本土間の交通手段は主に船が用いられている。そのため、離島と本土の行き来には船の運航時間の確認や悪天候による運航停止、港からの乗り換えなど、多くの苦勞を強いられる。このような苦勞が多い事から、本土から離島への観光客数は少数しかいないことが現状である。これらの事態を解決し、気軽に離島・本土間に行き来することを可能にするためには、海底トンネルの建設が必要であると考えます。

私が考える海底トンネルは線路・車道・歩道が設備されていて、どの交通手段でも本土から離島へ行く事ができるものである。従来の交通手段である船と比べて、海底トンネルを利用した際の利点として「天候に左右されない」、「離島に直行ができる」、「乗客人数の増加」、「所用時間の短縮」などを挙げることができる。もし海底トンネルが完成すれば、本土と離島の境界は無くなり、お互いが楽に行き来できる世界を創造することができる。



## 【STEP2】観光地への転換（目玉施設やリゾートホテル建設）

次に、過疎地域を活性化させるには目玉となる観光施設や特産物が必要になる。そこで、「海と一体化できる島！」をスローガンに、海をテーマとした施設を幾つか建設する。まず、離島に来る段階から企画は始まっている。離島・本土間に建設を目的としている海底トンネルを全面ガラス張りにすることで、まるで海の中を移動しているかのような非現実的かつ神秘的な体験を行うことができる仕組みである。また、海底トンネル途中に駅や、

海中を眺めることができる駐車スペースなどを建設することで、写真の撮影スポットや水族館のような役割も果たすと考える。

次は、リゾートホテルの建設である。今回提案するリゾートホテルは通常とは異なり、海底に存在するホテルである。このホテルは全ての施設が海中に存在しているので、全面ガラス張りにすることで海中での生活を疑似体験することができる。また、ホテルに備えられているレストランでは離島の特産物や、その日に捕れた新鮮な魚介類を使った特別な料理を多数用意することで、そこでしか食べる事ができない限定感を観光客に与え、再訪者の増加も図る。



### 3 , リゾート化計画の効果

これらの計画を実施することで、離島への観光客数が増え、それに伴い特産物や土産品の売り上げ増加が見込まれる。また、特産物生産のために、10代、20代を対象とした農業希望者の仕事の斡旋や、空き家や空き店舗を低価格で貸し出すような移住者への支援を行い、新たな移住者を増やす事によって離島全体の経済が潤う事で既存の事業拡大などが予想される。これらのことから、新たな雇用も増え、住民の増加に繋がることで、離島の人口減少や高齢化の歯止めになると考える。

### 4 , 課題と対策

#### ( 1 ) 海底トンネルについて

課題	対策
・海底トンネルの手入れ	・月に一度プロダイバーによる手入れ
・トンネル内の排気ガス	・ガラスを二重構造にすることで通気口の確保
・用いるガラスの種類	・水族館で多く用いられているアクリルガラスの使用

( 2 ) リゾートホテルについて

課題	対策
・海底ホテルにかかる水圧	・沿岸部の浅瀬に建設することで水圧の軽減
・汚水処理	・貯蓄して細菌分解を行い廃棄
・水の確保	・蒸留濾過装置を用いて海水を蒸留

5 , まとめ

今回私は、過疎化が進む離島の人口減少に歯止めをかけるため「離島リゾート化計画」を提案した。当計画が実施された場合、多くの観光客が離島に押し寄せ賑わいを見せるであろう。そして、1つの離島の活性化に成功した場合、離島とその他の離島とを、海底トンネルで繋ぐことで、1つの離島だけではなく、その海域全体の観光客数の増加にも繋がると、考える。